



元気っ子

No 346 ながさわ保育園

園長

中瀬 弦 偉

先月は子どもの自己決定についての「時間の使い方」「けじめ」について、これが学童期や大人になってからの生活や学業に大きく影響するほど大切だとお話をさせていただきました。これは是非様々な場面において、ご家庭でも実践していただきたいと思います。

このことについて、先日の朝日新聞に『子どもに委ね 学ぶ力「開花」』という記事が掲載されていました。内容は、日本教職員組合（日教組）の全国集会が三重県で開催され、静岡県の公立小学校が1年生に行った、教室の前半分は算数、後ろ半分は国語を学ぶという従来型ではなく、遊びや体験を通して学ぶ「単元内自由進度学習」を取り入れた実践について報告したものです。その中で、発表者が「自分で選んだ学習は、通常の一斉授業より意欲や粘り強さが高まることがわかった」とありました。これは2030年を予定している次期学習指導要領の改訂につながる実践であるとともに、「自己決定」の大切さを裏付けるものです。

この「単元内自由進度学習」に似た取り組みとして、ながさわ保育園では以前より主活動の「選択制」を取り入れています。またゾーン環境を通した活動も「選択制」の一つです。この取り組みは子ども自らが遊びを選び、自己決定をしていく環境設定です。こうすることにより、子どもはより一層遊びに没頭しますし、活動に対して意欲的な態度が見られます。乳幼児期の遊びは「学び」とイコールなので、こういった環境で育まれた集中力等の資質は、小学校以降に学習への取り組み態度として現れてきます。

そもそも、保育園や認定こども園等の乳幼児教育保育施設においては、「自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、」や「子どもの自発的な活動を尊重するとともに」「子どもが現在を最も良く生き、」など子どもの主体的な活動や選択を大切にし、子どもの「学びに向かう力、人間性等」が育つよう努めなくてはならないと保育所保育指針に示されています。

是非ご家庭における子どもとのかかわりにおいても、子どもの主体的な活動を支えてあげてください。くれぐれも「転ばぬ先の杖」「過度な早期教育」にならないようあたたかく見守っていただければと思います。乳幼児期には乳幼児期にこそ遂げなくてはならない発達や培わなくてはならない資質があります。それをないがしろにしてしまっは、その先に必ず「ゆがみ」や「ひずみ」が現れてしまいます。

以前、脳科学の専門家が「幼いころにポーっとしたり、遊んだり、親に優しくしてもらうことは土地を拡げることと似ている。逆に勉強とか知識を詰め込んだりすることは建物を建てることに似ている、建物は高くはなるけど、土地が広がっていないから他の建物が建てられなくなる」と言っていました。

乳幼児期はまさに、この「土地を拡げる」時期です。しっかりと土地が広がっていれば、後々しっかりとした建物が建てられます。

保育園においても、子どもたちがしっかりと土地を大きく拡げられるよう精一杯のお手伝いをさせていただきます。ご家庭とともに「子どもの最善の利益」を守るようにこれからも共に歩んでいきたいとおもいます。今月もどうぞよろしく願いいたします。